

ESG情報の可能性 —投資意思決定での活用に向けて—

鷹羽 美奈子

目 次

- | | |
|----------------------|--------------------|
| 1. はじめに ESG情報への期待と疑問 | 4. ESG評価の実務 |
| 2. ESG情報の種類と特徴 | 5. ESGデータの投資実践での活用 |
| 3. ESG情報選択のための論点整理 | 6. まとめ |

ESG投資への関心が高まる中、金融情報ベンダーが提供するESG情報の具体的なイメージを持つ投資実務家はまだまだ少ない。しかし、定性的なESG情報を定量化して投資実務家に提供するESG情報ベンダーの役割は今後ますます重要になる。本稿ではESG情報ベンダーが提供する情報の特徴や活用方法（指数やポートフォリオ管理ツールでの使用）をMSCIの事例を中心に紹介し、投資判断でのESG情報活用の可能性を示す。

1. はじめに ESG情報への期待と疑問

(1) 投資意思決定への活用の期待と疑問

1990年代からエコファンドや社会貢献型ファンドが日本の個人向け投資信託市場に登場したが、当時はテーマ投資の域を出ないものが多く、投資家の間で環境、社会、ガバナンス（以下、ESG）情報への本格的な需要があったわけではなかった。欧米においては、責任投資として投資プロセスへのESGインテグレーションや古くからの倫理投資の情報源としてESG情報は広く活用され

ていることと比較しても、日本でのESG情報への需要は改めて低かったと感ずる。しかしながら、昨今において、国連責任投資原則（通称UN PRI）への署名機関投資家の増加や日本版スチュワードシップ・コードの導入によって、日本においてもESG格付けやESG指数などの投資サポートツールにも急速に関心が高まっている。特に、国連が提唱したPRIに署名している海外アセットオーナーから出される運用委託のRequest For Proposalに含まれているESG投資状況に関する質問への対応や、スチュワードシップ・コードの実践に役立つことを目的に運用会社における関心が強まっ



鷹羽 美奈子（たかば みなこ）

MSCI ESGリサーチ ヴァイス プレジデント。2000年青山学院大学国際政治経済学部卒業。02年横浜国立大学社会科学研究所修士課程修了。同年、あずさ監査法人入社。その後、ボーダフォン日本法人、ソフトバンクモバイル(株)を経て、07年よりMSCIにてESGリサーチに従事。著書に『金融機関の環境戦略（共著）』（金融財政事情研究会、05年）がある。